

パリ祭に現れた空飛ぶ男、ドーバー海峡横断 2 度目の挑戦で今度は成功



4日（日）、7月14日に行われたパリ祭（Le 14 Juillet / Fête nationale française）で空から颯爽と現れ注目を集め一躍有名になった、フライボードエアー（Flyboard Air）の発明者 فرانキー・ザパタ（Franky Zapata）氏が、2度目のフライボードエアーでのドーバー海峡（仏：Le pas de Calais / 英：Strait of Dover）横断に挑戦し、見事成功を収めました。

今最もフランスで注目を集めている男性

ザパタ氏は、7月14日のパリ祭の際、フランス軍が軍事技術の一つとして注目している、空中を

自由に浮遊して移動することのできるフライボードで登場し一躍話題となりました。

その11日後の7月25日（木）には、ドーバー海峡横断に挑戦し、更に大きな注目を集めました。しかし、前回の挑戦では、海上での給油の際に失敗し海へ転落したため、挑戦は失敗に終わっていました。その際には「成功するまでやり続ける」と強く語っていました。

関連記事：

[7月14日 パリ祭がおこなわれフランス中がトリコロールに染まる 2019.07.16](#)

[シャンゼリゼの空飛ぶ男、ドーバー海峡横断に挑戦するも失敗 2019.07.26](#)

20分ちょっとで海峡を横断

それからわずか10日後の、4日（日）午前中、ザパタ氏は2度目の挑戦を行いました。

午前8時16分、多くの観衆に見守られながらフランス側のパド=カレー県（Pas-de-Calais）のサンガット（Sangatte）を飛び立ったザパタ氏は、23分後の午前8時39分、ドーバー海峡の対岸、イギリス側のセント・マーガレッツ湾に無事到着しました。

軍事応用には否定も肯定もせず

挑戦を終えたザパタ氏は、「毎日16時間協力してくれたチームのメンバーに感謝する」と述べました。前回失敗の原因となった給油に関しては、「ボートに着陸する時は怖かったが、うまくいった」と語りました。

また、この技術が軍事目的に使用されることへの質問を受けた際には、「決定を下すのは彼ら（軍事関係者）だ。フライボードが軍の特殊部隊に適していないことは知っているが、この手の技術は彼らにとって興味があることだ」と述べた一方、「私たちはジェットスキーの分野の人間であり、全員がエンジニアと言うわけではない。私は（フライボードを）レジャーの為に作成した。」とレジャー目的での開発をアピールし、軍事応用に関しては明言を避けました。

最狭部で34キロのドーバー海峡

ドーバー海峡は、フランスとイギリスの間に広がるイギリス海峡（仏：La Manche / 英：English

Channel) の最も狭い部分で、北海とイギリス海峡の境界付近にあり、「北海と大西洋の境界」や「イギリス海峡の最狭部」と形容されます。

ドーバー海峡の最も狭い部分は、わずか34キロメートルで(参考: 津軽海峡の最狭部で18.7キロメートル)、フランスのカレー市(Calais)とイギリスのフォークストーン市(Folkestone)の間には英仏海峡トンネルが通っていて、ユーロスター(Eurostar)が両国間を行き来しています。

人々が空を飛びながら移動するのも、そう遠くない未来なのかもしれません。

執筆: Daisuke

オンラインフランス語学校
ENSEMBLE EN FRANÇAIS
アンサンブルアンフランセ

オンラインフランス語学校アンサンブルアンフランセは、プロの講師によるマンツーマンのスカイプレッスンが1回1500円~受講できます。いつでもどこでも手軽に受講できる利便性と生徒一人一人にカスタマイズされた質の高いレッスンが好評です。

